

地域福祉の充実をめざして、
支える心のネットワーク！



福祉 ちば

No. 199

2023.11 November

千葉県ボランティア・市民活動センター機関誌
エールちば

佐倉市
特定非営利活動法人
NPO子どものまち



子どもたちが主体的に生きていく地域社会を実現

Field study ♥ 地域の福祉活動
フィールドスタディ

〔柏市〕風早南部地区社会福祉協議会

全世代の人が助け合いいきいきと暮らせる
地域を目指して住民支援と福祉教育に取り組む

県社協ニュース

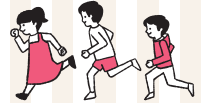
- 令和6年度千葉県予算に反映を
—花島会長が熊谷知事に要望書を提出
- 3市町社協が災害ボランティアセンターを開設
—令和5年台風第13号災害

特定非営利活動法人 NPO子どものまち 子どもたちが主体的に 生きていく地域社会を実現



佐倉市にあるNPO子どものまちでは、商店街に拠点をつくり、子どもたちが模擬的な「まち」をつくって楽しむ大規模なイベント「ミニさくら」や、住民同士がふれあいを育む地域食堂「まちの縁側ごはん」などの取り組みを通じて、地域コミュニティの醸成を目指した活動を行っています。

子ども自身が仕組みを考え「まち」をつくって遊ぶ



「ミニさくら」は、子どもが主役となって「まち」づくりを楽しむ活動で、佐倉市の中志津中央商店街で毎年3月頃に開催されます。ドイツで行われている「ミニミュンヘン」をモデルに、2002年に全国に先駆けて始まり、700人以上の子どもたちが参加した年もあり、大規模な子どものイベントとして地域に根付いています。2023年にはコロナ禍を経て4年ぶりに現地開催され、2024年3月にも現地開催が予定されています。

子どものまちなかの大人の居場所である「おとなカフェ」の店員さんが、商店街を歩いて宣伝をしています。それぞれのブースがお客様を呼び込むための宣伝をして商店街の中を練り歩くのが定番です。



子どもたちは好きな仕事に就いて給料をもらい、買い物や食事をして遊びます。

「ミニさくら」には、サービスを提供するお店だけでなく、市役所や職安等の公共のブースがあります。また、選挙で市長を決めます。「ミニさくら」は「まち」らしく変化していくことを大切にしています。小学生から高校生まで、異年齢の子ども同士のつながりができることもこの活動の魅力の一つです。

かつて参加した子どもが担い手としてイベントを支える



この活動は、子どものスタッフが半年前から、「まち」の仕組みやルールを決め、出店したいブースについて話し合いな

がら準備を進めていきます。子ども自身に裁量があることが「ミニさくら」の面白さだと、金岡香菜子理事長は言います。「教育的な意義を重視するのではなく、あくまで楽しく遊ぶことが最優先。自由にのびのびと活動することで、子どもたちが主体性を身に付け、成長を感じられることが嬉しいです」。



金岡香菜子理事長

金岡理事長も小学5年のときに初めて「ミニさくら」に参加しました。その面白さに感激し、18歳まで子どもスタッフとしてかかわってきました。その後は団体の代表となり、現在に至っています。

NPO子どものまちは「ミニさくら」の事業のために立ち上げた団体で、2016年に法人化しました。現在約15名の理事で構成されており、イベント時は大学生から80代まで約50名がボランティアとしてかかわっています。金岡理事長のように、子どものときに「ミニさくら」に参加した方が、数多く担い手としてかかわっていることが特徴として挙げられます。



市長選挙の様子です。立候補者の中から高校1年生の男の子が当選しました。放送局ブースではたくさん子どもたちが、新市長に取材をしています。

地域の大人のおかげで 今の自分があるという想い



金岡さんは、今後も「ミニさくら」の活動を続けていきたいと話します。「子どものまち」は、日本中にたくさんあります。しかし、資金面での困難や、人員の確保が得られず、閉鎖してしまうまちもあります。私はこれまでにいろいろな「子どものまち」を見てきましたが、佐倉の「子どものまち」が一番好きです。自分が子どもの時に、子どもである自分を「一人の人」として接してくれた地域の大人に出会えたことが、私がこの活動を続けるきっかけになりました。大人になった今、自分も同じように子どもたちに接することを意識しています。

まちの縁側ごはん

地域食堂の開催を通して コミュニティの醸成を目指す



NPO子どものまちでは、商店街の空き店舗に拠点を構え、地域コミュニティの醸成を目指した活動にも取り組んできました。毎週火曜日に開催している地域食堂「まちの縁側ごはん」もそのひとつです。食べることを通じた地域づくりの一環として開催しており、誰でも参加できます。食材は「安心・安全」にこだわっており、ボランティアスタッフが持ち込んだり、寄付していただいた食材をスタッフが調理します。取材に何うと、4人のスタッフと9人の参加者がランチを囲んでいました。彩り豊かなメニューは見た目もおいしそう。食後はコーヒーを飲みながら世間話に花が咲きました。



世代間交流の場をつくりたい



以前は、子どもや、子育て中の若い世代の方の参加もありましたが、コロナ禍をきっかけに高齢の方が大半を占めるようになりました。

「一人暮らしの方々が週に一回、ここに来て、人とふれあい、明るい笑顔で帰っていかれる。そんな活動を続けていくなかで、参加者もスタッフも地域のなかに少しずつ顔見知りが増えてきました。参加いただいた方から、元気になった、今日も楽しかった、という声を聞けると、続けていて良かったと思います」と理事の釜石典子さんは話します。



釜石典子理事

年1回の大規模なイベントと、週1回の地域食堂の地道な取り組み。その相乗効果でたくさんの人と人がつながってきました。

「今後は、コロナ禍になる前のように“みんなで作って楽しく食べる”ことを通じて、参加者同士の世代間交流の場をつくり、ミニさくらの活動にも広げていきたいと思っています」と話してくれました。



参加者



たまい ちいこ
玉井 智意子さん

一人暮らしで足が悪く、家では簡単な料理しかできないのですが、ここにくると野菜をたっぷり使った、手の込んだお食事を食べることができるのがうれしいです。毎週欠かさず参加しています。みなさんとおしゃべりする時間も楽しくて、私にとって、なくてはならない場所になっています。

ボランティア



しみず よしこ
清水 佳子さん

以前は理事を務めていましたが、現在はボランティアとしてかかわっています。私は趣味で野菜やお米を栽培しているのですが、収穫物をみなさんに食べていただくことが励みになっています。今日は獲れたての新米を持参しました。「おいしいね」と笑顔で言っただき、うれしかったです。



全世代の人が助け合い いきいきと暮らせる地域を目指して 住民支援と福祉教育に取り組む

柏市の風早南部地区社会福祉協議会（以下、風早南部地区社協）は、ふれあいサロンなど高齢者の集いの場を数多く立ち上げたり、民生委員と連携した高齢者の見守り活動に取り組んだり、地域福祉活動を積極的に推進してきました。令和3年度からは「福祉教育パッケージ指定」を受けて学校と連携しながら福祉教育も推進しており、学校や子どもたちとのつながりも深めています。

高齢者が集える場を提供し 地域の見守り活動にも注力

風早南部地区は柏市の東南部に位置する、自然豊かな地域です。現在の人口は約2万3000人、高齢化率は25%（令和5年4月1日現在）ですが、今後急激に高齢化が進むことが予想されています。

風早南部地区社協が力を注いだ取り組みのひとつが、高齢者を対象とした集いの場の運営です。ふれあいサロンは5会場、「ホットコーナー」というお茶飲み会は3会場を立ち上げて、それぞれ月1回程度開催してきました。

地区内にくまなく会場を立ち上げただけでなく、どの会場も多くの参加者を集めています。その理由について地区社協会長の高橋克彦さんは「参加者同士で気兼ねなくお喋りできるという理由ももちろんあると思いますが、手芸やスポーツなど、毎回違ったプログラムを用意して、楽しんでもらっていることが大きいと思います。地元のボランティア団体にハーモニカを吹奏してもらったり、手品を披露してもらったりしました」と話します。出演者と参加者が一体となって、趣味や得意なことを活かすことで、多彩なプログラムづくりにつながっています。

民生委員と連携した高齢者の「見守り活動」も風早南部地区社協では実施しています。民生委員でもある地区社協福祉部部長の上口澄吉さんは「『見守り』というと重く考えられがちですが、お会いした時に元気がないとか、洗濯物が干しっぱなしになっているとか、そういったことに気付く『さりげない気づかい』『ちょっとした目配り』が大事だと考えています」と強調します。何



ふれあいサロン

かがかりなことがあれば、地域包括支援センターや柏市社会福祉協議会へつないでおり、こうした活動の積み重ねで地域から孤立する人が減ることを目指しています。

小・中・高校と連携して 福祉教育活動をスタート

風早南部地区社協ではこのように高齢者支援に軸足を置いて活動してきましたが、令和3年度から5年度の3年間、地区内の高柳西小学校、高柳小学



キャンプファイヤー

校、高柳中学校、県立沼南高柳高校と連携して福祉教育を推進する「福祉教育パッケージ指定（※千葉県および千葉県社会福祉協議会が指定）」を受けたことを契機に、子どもたちへの支援にも力を入れています。

指定を受けてまず行ったのが、それぞれの小中学校で実施する車いす体験、視覚障害体験、高齢者体験などの疑似体験への協力です。地区社協も毎回参加して、安全管理上のサポートを行いました。これまでつながりが薄かった小中学校の先生方との信頼関係を構築する一助となりました。

また、高柳西小学校では、コロナ禍で修学旅行などが中止になって思い出が作れなかった小学6年生のために、先生方と連携して校庭でキャンプファイヤーを開催しました。消防署など関係各所との調整や薪の組み上げなど、



稲刈り体験

準備をしなければいけないことは多岐に渡り、しかも力仕事も多かったそうですが、PTAの方々に声を掛けただけで、快く協力してくれたそうです。多くの関係者が一致団結したことにより、子どもたちに普段はなかなか体験できないようなひとときを楽しんでもらうことができました。

さらに高柳小学校では、以前から学校と「大津川をきれいにする会」との共催で行われている小学5年生を対象とした「田植え」と「稲刈り」の体験学習に、令和4年度からの2年間、地区社協も協力を行いました。「約100名の生徒が体験学習に参加しましたが、田んぼは笑顔と歓声がいっぱいでした。『お米づくりの大変さがわかった』という子どもたちの感想を聞いて、やってよかったと思いました」と地区社協副会長の渡来正八さんは振り返ります。

子どもたちが絵札を描いて 地域のかるたを作成!

町を挙げてのプロジェクトとして注目されるのが「風早南部かるた」の作成です。神社仏閣や史跡など歴史資源が豊富な地域の魅力を、かるたを通して次世代に伝えていこうと、地域の団体や市の関係部署が中心となり、市社協や地区社協も加わってプロジェクトチームが結成されました。小・中・高校の生徒が絵札を描き、沼南高柳高校

書道部が題材・読み札を書いて、3年の月日をかけて完成させました。

プロジェクトの時期がちょうどパッケージ指定時期と重なったことで、かるた作りに積極的に関わろうという関係者の機運も高まりました。今後は様々な集まりでかるた大会などを開催し、地域の魅力発信とかるたの普及を行っていきたく考えています。

福祉教育パッケージ指定の期間は今年度で終了しますが、子どもたちや学校とのつながりは地区社協の大きな財産となりました。高橋会長は「キャンプファイヤーを行った時のように、今後はPTAと積極的に組んで活動したいと考えています。若い親御さんとの関係づくりを進めて、私たちの課題である後継者不足の解消につなげていきたい」と先を見据えて、また新たな一歩を踏み出そうとしています。



作成したかるたで遊ぶ（納涼祭）

柏市社会福祉協議会 TEL 04-7163-9000

我が事意識の醸成を目指す

柏市社協では、「ともに生きる力」を育めるように福祉教育などの様々な事業に力を入れています。

年間を通じ、高齢者疑似体験や白杖・車いす体験講座等で学校や地域に出向き、多様性の理解と共に「私たちができること」を考える出前講座を実施しています。また、インクルーシブ公園でのイベントやパラスポーツ体験を開催し、障害・世代等に関わらず誰もが交流できる機会を福祉教育ボランティアさんと一緒に作っています。

夏休みには小学生から大学・専門学生に向けて、福祉の普及啓発のため「おうちのひと考える福祉」として『ふくしの種』リーフレットの配布や福祉をテーマにポスターを募集し入賞作品は「ふくしの心作品展」として市内ショッピングモールと連携し作品展を開催しています。また市内の様々な施設・団体に協力いただき学生がボランティア体験できる「夏ボラのススメ」の冊子の提供等、様々な体験を通じ、幼いころからの我が事意識の醸成に努めています。



柏市社協 福祉教育担当職員のお二人

令和5年12月1日より **歳末たすけあい募金が始まります**

歳末たすけあい募金は共同募金の活動のひとつで、新たな年を迎える時期に、支援を必要としている人が安心して暮らすことができるよう毎年12月に実施されます。歳末たすけあい募金には市町村の区域ごとに行う「市町村歳末たすけあい募金」と「NHK歳末たすけあい募金」があります。

今年も県内のさまざまな地域課題の解決のために、歳末たすけあい募金への温かいご理解・ご協力をよろしくお願いいたします。

市町村歳末たすけあい募金（地域歳末たすけあい募金）

市町村を単位に全国で行われる運動で、住民の参加や理解を得てさまざまな福祉活動を重点的に展開するものです。

お寄せいただいた寄付金は、全額が集められた地域で使われ、お正月料理を配りながらの見守り訪問など、支援を必要としている人たちが安心して新年を迎えることができるよう様々な福祉活動に役立てられます。



高齢者や障がいのある方の
送迎ボランティア【習志野市】



子ども食堂のお弁当配布や
マルシェの開催【佐倉市】

NHK 歳末たすけあい募金

毎年NHKと共同募金会の共催で行われる、助けあい運動です。

お寄せいただいたご寄付は、県内の福祉施設での介護用品や就労支援作業用品、防災備品、新型コロナウイルス感染症対策備品の整備などに役立てられます。昨年は千葉県内67施設への助成に役立てられました。



特別養護老人ホームの
体重計の購入【市原市】



就労支援施設の
耕運機の購入【いすみ市】



令和5年度
NHK歳末たすけあいポスター

令和5年度 歳末たすけあい募金目標額

2億4,000万円

内	市町村歳末たすけあい募金	2億1,000万円
訳	NHK歳末たすけあい募金	3,000万円

皆さまの温かいご理解・ご協力を
よろしくお願いいたします

**共同募金は、時代とともに変わる「みんなのため」の募金です**

共同募金運動は、第二次世界大戦後、昭和22(1947)年に「国民たすけあい運動」として戦後復興を目的に始まりました。現在では、高齢者や障がい者に対する支援のほか、子ども食堂の運営や地域の交流のための事業など、時代の移り変わりに合わせたさまざまな地域の課題解決に取り組んでいます。赤い羽根募金は、「じぶんの町を良くするしくみ」。長年、運動に携わってきたボランティアの皆さま、寄付者の皆さまに、心より感謝申し上げます。

NHK歳末たすけあい助成を受けたい方へ

令和5年度の助成内容		
助成内容	社会福法人・NPO法人・任意団体等の利用者に役立つ備品購入	
助成率	NPO法人・任意団体 その他の団体	算定額の100% 算定額の75%
助成上限	20万円	
申請期間	11月22日まで	
助成時期	令和6年3月上旬	

助成申請書や要綱は当会ホームページにてダウンロードいただけます。
<https://akaihane-chiba.jp/> 詳しくは下記までお問い合わせください。

社会福祉法人 千葉県共同募金会

〒260-0026
千葉県千葉市中央区千葉港4-5
県社会福祉センター4F
TEL:043-245-1721 FAX:043-242-3338

<https://akaihane-chiba.jp/>



赤い羽根 ちば



千葉県共同募金会
マスコットキャラクター「びわびよ」

令和6年度千葉県予算に反映を 花島会長が熊谷知事に要望書を提出

本会花島会長は、8月30日(水)に県庁知事室において「令和6年度千葉県予算に関する提案・要望」を熊谷知事に提出しました。

花島会長からは、「10項目の要望書を作成した。特に、災害ボランティアセンターにおけるICTの導入と介護・福祉・保育の人材確保対策については最重要課題なのでご配慮いただきたい」と説明しました。熊谷知事からは、「県社協は県の重要なパートナーだと思っており検討したい」との回答がありました。



熊谷知事(右)に要望書を提出する花島会長(左)

3市町社協が災害ボランティアセンターを開設 令和5年台風第13号の接近に伴う大雨災害

9月8日の台風第13号による大雨に伴い、茂原市社協、大網白里市社協及び長南町社協がそれぞれ災害ボランティアセンターを開設しました。

災害時の相互協定に基づき、県市町村社協から延べ57名の職員が支援に駆けつけました。

長南町に支援に入った職員からは、「小規模の町で災害が起きた際の災ボラ運営の大変さを感じるとともに、日頃の業務で職員さんが作りあげてきた地域の繋がりを垣間見ることができました」などの声が聞かれました。



茂原市災害ボランティアセンター 活動の様子

日本国内でのボランティア活動中のケガや賠償責任を補償 !!

令和5年度

ボランティア活動保険

商品パンフレットは
こちらから
(ふくしの保険ホームページ)

**保険金額・年間保険料(1名あたり)**

団体割引20%適用済 / 過去の損害率による割増適用

保険金の種類		基本プラン			天災・地震補償プラン	特定感染症重点プラン
ケガの補償	死亡保険金		1,040万円			
	後遺障害保険金		1,040万円(限度額)			
	入院保険金日額		6,500円			
	手術	入院中の手術	65,000円			
	保険金	外来の手術	32,500円			
	通院保険金日額		4,000円			
賠償責任の補償	特定感染症		補償開始日から10日以内は補償対象外(*)		初日から補償	
	地震・震火・津波による死傷		×	○	○	
	賠償責任保険金 (対人・対物共通)		5億円(限度額)			
年間保険料			350円	500円	550円	

*3月末までに契約手続きが完了し、前年度から継続して契約される場合は初日から補償します。

ボランティア行事用保険

(傷害保険、国内旅行傷害保険特約付傷害保険、賠償責任保険)

送迎サービス補償

(傷害保険)

福祉サービス総合補償

(傷害保険、賠償責任保険、約定履行費用保険(オプション))

● このご案内は概要を説明したものです。詳細は、「ボランティア活動保険パンフレット」にてご確認ください。●

団体契約者 社会福祉法人 全国社会福祉協議会

〈引受幹事〉損害保険ジャパン株式会社 医療・福祉開発部 第二課

TEL:03(3349)5137

受付時間：平日の9:00~17:00(土日・祝日、年末年始を除きます。)

この保険は、全国社会福祉協議会が損害保険会社と一括して締結する団体契約です。

取扱代理店 株式会社 福祉保険サービス

〒100-0013 東京都千代田区霞が関3丁目3番2号 新霞が関ビル17F

TEL:03(3581)4667

受付時間：平日の9:30~17:30(土日・祝日、年末年始を除きます。)



福祉・保育の就職説明会のお知らせ

千葉県内の法人・事業所が多数参加する就職説明会を開催します。

福祉・保育のお仕事をお探しの方や興味・関心のある方には、多くの法人・事業所から一度にお話を聞ける絶好の機会です。入場無料、事前申込・履歴書・スーツ不要ですので、ぜひ私服でお気軽にお越しください。

第5回福祉のしごと就職フェアinちば(木更津会場)

日時:令和5年11月18日(土)午前11時～午後3時

会場:木更津市立中央公民館 自習&ワークスペース

〔〒292-8501 木更津市富士見1-2-1 スパークルシティ木更津6階〕 【JR木更津駅西口から徒歩1分】

第6回福祉のしごと就職フェアinちば(船橋会場)

日時:令和5年12月10日(日)午前11時～午後3時

会場:船橋市民文化創造館(きららホール)

〔〒273-0005 船橋市本町1-3-1 フェイスビル6階〕 【JR船橋駅南口から徒歩2分】

第2回保育de就職!@千葉 保育のしごと就職フェスタ(柏会場)

日時:令和5年11月12日(日)午前11時～午後3時

会場:柏の葉カンファレンスセンター ルーム5・6

※三井ガーデンホテル柏の葉 2階

〔〒277-0871 柏市若柴178-4〕 【つくばエクスプレス柏の葉キャンパス駅より徒歩2分】

福祉のしごと ところの相談

ひとりで悩まず話してみませんか？

千葉県福祉人材センターは、福祉・介護の仕事をしていく中で、「人間関係がづらい」、「最近眠れない」など、悩みや葛藤を抱えて福祉の現場で働く方を応援します。

- ◇経験豊富な相談員(介護支援専門員・保健師・産業カウンセラーなど)が丁寧に相談に乗ります。もちろん無料です。
- ◇相談内容については秘密を厳守しますので、安心してご相談ください。
- ◇相談日:月～金曜日(来所相談も可能)※土日祝日、年末年始は休館
- ◇担当相談員
＜月曜日、火曜日＞ 介護支援専門員 ＜水曜日、木曜日、金曜日＞ 保健師・産業カウンセラー
- ◇相談時間:10時～18時 ◇TEL:043-306-3315

詳細は各ホームページをご覧ください。

千葉県福祉人材センター

<https://www.chibakenshakyo.net/>



ちば保育士・保育所支援センター

<https://www.chibahoiku.net/>



編集・発行 社会福祉法人 千葉県社会福祉協議会

令和5年11月1日発行

〒260-8508 千葉市中央区千葉港4番5号 TEL.043-245-1101 FAX.043-244-5201
<http://www.chibakenshakyo.com>

広報誌「福祉ちば」発行には、一部共同募金の配分金を充当しています。